

東京地方壮年連合通信 vol.85

TOKYO SOHNEN RENGOH TSUUSHIN 2020年3月14日

「心が燃える」

市川大野キリスト教会牧師 富田愛世（とみた まなせ）

2020年を迎え「新しい年が始まった。さあ！」と思っていたのも束の間、連盟や東京地方連合、また、壮年会でお世話になった信仰の先輩たちの訃報が相次ぎ、寂しい思いの中でのスタートになってしまいました。

何が「寂しい」のかということと彼らの「声」、その時々に応じて主義、主張を述べておられたあの「声」が聞けなくなるとすると、無性に寂しい思いがするのです。

それぞれが連盟の総会で、また、東京地方連合の総会で、さらに壮年会で、活発な議論を展開してこられました。彼らに共通するものがあるように感じます。それは、徹底してバプテスト主義を語られていたという事です。

ちょうどこの原稿を書いている時期と協力伝道週間が重なっていたので、このようなことを思い出したのかもしれませんが、協力伝道という視点からは、連盟を支えているのは自分なのだという誇りと責任を語られ、連盟は運動体なのだから、宣教を中心とした様々な活動、働きが重要なことで、そのために時間やお金を惜しげもなく捧げておられたように思います。

また、教会規模の大小にかかわらず、それぞれの教会が大切だと主張し、さらに、社会とのかかわりにおいては、意見の違いを真剣に議論することにおいて喜ばれていた姿を思い出します。

そのうちのお一人は、30数年前、私が東京地方連合の少年少女担当として関わっていた時、バリバリの壮年として、少年少女の活動を助けてくださり、その後、私が牧師になってからも東京地方連合の総会、連盟の総会、また、壮年大会などで活発な議論をされていました。

当時の私の目には「熱きおじさん」と映っていましたが、振り返ると今の私は彼の年齢をすでに超えていることに気づき、愕然としています。

思い出話をするにも意味はあると思いますが、このような先輩たちの姿勢を思い出しながら、一つの聖書が頭に浮かんでいます。それはルカによる福音書24章13節以下のエマオ途上の話です。二人の弟子たちは、イエスとは気づかず、道々聖書の話をしている時、心が燃えていたと語ります。

今、地上では会うことのできない先輩方の姿を思い浮かべる時、それぞれの人生の途上で、イエスについて、聖書について、教会について話をしてい

た時、心が燃えたという経験を共にさせていただいたことを思い起こします。それは、過去の事柄ではなく今も続いていることであり、これから先も続いていく「心が燃える」出来事なのではないでしょうか。

第3回オープンフォーラムに参加して

大井バプテスト教会 山田誠一（やまだ せいいち）

今回は、今年度最後のオープンフォーラム「ザ・ファイナル」に参加した時に私が思わされた事を執筆させていただきます。これは、2月15日（土）に大久保バプテスト教会にて行われました。今までで一番多くの方が参加されたと思いますが、それでも30名ぐらいです。とても有意義な時でしたのに残念です。

さて、今回のテーマは「将来の牧師像～フルタイム、兼牧、兼職？」発題者は篠原健治（福岡国際キリスト教会牧師）。主題は『パウロのように～兼職は献職』。という事で講演がスタートしました。この先生は、牧師になれる前から手に職をつけておられたし、牧師になってもこの職を手放す気はなかったという事です。それが可能だったのは職業にもよるでしょう。先生は現在も月曜日からの平日は塾の講師として働いておられます。それも九州新幹線で遠方まで行かれて。しかし、祈祷会と主日はしっかりと牧会されておられます。新幹線で移動中の時間もパソコンを使って準備をされています。しかし、私が懸念したことがあります。「働きながらで、信徒の教育や牧会、教会形成をどのようにされているのか」と。私は、これらのことが少なからず疎かになってやしないか？と思ったのです。先生は「移動の途中でも、仕事の合間でも、教会のことや信徒のことを忘れたことはない」と。なんと、毎年バプテスマ者が与えられているとか。また、仕事（塾の講師・西南学院での受講）を通して伝道もしている。宣教を広げているという意識を持っておられます。

こんな質問もありました。「年金をもらえようになったら、牧師に専念するんですか？」。先生は「そうなくても、仕事は辞めない。塾の講師という働きを通して福音宣教をして、たくさんの人と関わり合いたい」と。

私は、牧師でありながら他の仕事をするとする事は、その牧師給では生活できないので、仕方なくするものだと思っていました。これがいけない訳ではなく、そうしなければならぬ牧師もおられるでしょう。篠原先生のパターンの方が稀有かも知れません。

また、今後は、小さな教会を2～3兼牧することも出てくるかも知れませんし、2～3の教会伝道所が一つに統合されていくことも十分考えられます。日頃から、地方連合ベースで近くの教会と宣教課題を語り合い、協力していく関係づくりが大切になっていくでしょう。これら諸々のために

も、教会を超えて「これからの教会宣教・伝道者養成」について真剣に語り合うべきです。

最後に、三回の貴重な語り合いの時間を備えてくださった東京地方壮年連合の役員の方々に深く感謝致します。

この一年を振り返って

大久保教会牧師 河野信一郎（かわの しんいちろう）

東京地方壮年連合会長代務者としての役目を一年という約束でお受けした際、私の目標は一つでした。それは、これからの時代に求められる牧師・教役者は、必ずしもフルタイムの者ではなく、仕事を持ちながらでも主の教会に誠実に仕えられる「兼職牧師・教役者」であるということ、そのような道もありなのだということを経験から共に聞き、自由に語り合い、そして共に祈ることでした。

しかし、その目標を実際に果たせたかと問われると、自信は全くありません。もっと共に聖書に聞き、もっと語り合い、もっと一緒に祈ることが足りなかったと感じています。けれども、「兼職牧師・教役者としての働きもあり！」という一石を投じることはできたのではないかと思います。

私たちの連合を見渡す時、牧師・副牧師として教会に忠実に仕えてくださっている兼職牧師・教役者は少なくとも10名おられます。感謝です。しかしながら、直視すべき現実には、諸教会から献身者が生み出されない、牧師・教役者の高齢化が加速していること、そしてフルタイムの牧師を招聘できない教会が全国的に年々増加していることです。

このような厳しい現状の中で、手に職を持ってすでに社会に出ている人たちが、働きながら「兼職」牧師・教役者となっても良いのだということに気づき、そのような人たちが働きながら（経済的にも）安心して学べる神学校へ押し出して、フルにサポートしてゆくことが急務であり、私たちの責任であると思います。

壮年連合役員会の仲間として共に歩んできました山口道征さん（幡ヶ谷）と久場俊男さん（恵泉）をこの一月に相次ぎ御国へ送りました。壮年連合役員会も高齢化し、協力者を切に求めています。お祈りください。ぜひご協力ください。

【今後の行事予定】

2020年5月 日(土) 定例役員会 10:00～ 会場：未定

東京地方壮年連合通信の今後の発行予定は20年6月

*** 訃報 ***

ブロック委員をしていただいていた山口道征兄（幡ヶ谷教会員）
1月1日召天
監査をしていただいていた久場俊夫兄（惠泉教会員） 1月16日召天
東京地方壮年連合が組織化されるまで長らく会長をされていた
瀧川佳秀兄（大井教会） 1月23日召天

ご遺族の上に主の慰めをお祈りいたします。
今までのお働きに感謝いたします。

報告

監査の後任として、鈴木武史兄（花野井教会）にお願いしました。

*** お願い ***

東京地方壮年の皆さん

東京地方壮年連合が結成されて、来年3月でまる10年になります。
しかし役員になってくださる方々がなく、困っています。
交通費しか出なくて、ボランティアになりますが、なんとしても役員
を担ってくださる方々を必要としています。
皆さん、ご協力くださいますよう、お願いいたします。
東京地方壮年連合 役員会

◇ 2019年度神学校献金(目標 500万円)のお願い ◇

日頃の神学生支援に対するご理解に感謝申し上げます。今年度も昨
年度に続き、500万円の目標に向かっての皆様からの祈りとサポート
をお願いいたします。

発行人：東京地方壮年連合会長 河野信一郎
編集人：佐藤洋二